The Zoological Society of Japan

明治四十年第五月發行
明治二十一年十月十日第二百十三號
動物學雜誌第十卷第三號
明治二十六年十月十五日內務省認可
郵便物認可
（毎月一回十五日發行）

THE ZOOLOGICAL MAGAZINE

PUBLISHED BY

THE TOKYO ZOOLOGICAL SOCIETY.

Vol. XIX. May 1907. No. 223.

CONTENTS.

PAGE

On Two New Species of the Eunicid Annelids.
By A. IZUKA, *Rigakushi.* 139

On Bertian Cestode of Apes.
By S. YOSHIDA. 143

Notes:— 150

Notice. The Zoological Magazine is published monthly.
The subscription price for Europe and America is 3 *Yen* per annum.
All letters and communications to be addressed to the TOKYO ZOOLOGICAL SOCIETY Zoological Institute, Science College, Imperial University, Tokyo, Japan.

NII-Electronic Library Service

The Zoological Society of Japan

明治二十一年十一月五日內務省認可
明治二十六年一月三十一日第三種郵便物認可（毎月一回十五日發行）

明治四十年五月十五日發行

（圖版二枚付）
（定價金二十錢）

（禁轉載）

動物學雜誌

第十九卷
第二百二十三號

目次

論說

イソメ科環蟲類の二新種に就て　理學士　飯塚啓

猿類に寄生する Bertia　吉田貞雄

雜錄

●露西亞帝國產圓口類●動物學者近況●昆蟲學界近況批評の一●ウソトリの害●蝦蟇果して無用の長物歟●二三の蠕蟲●トリクラダ●珊瑚につき●Alcyonacea の體內發育●收縮胞の作用●本年春期三崎實驗場日誌抄●水產研究誌の發行

會報

●東京動物學會例會記事

NII-Electronic Library Service

The Zoological Society of Japan

動物學雜誌 第二百二十三號
明治四十年五月十五日發行

●イソメ科環蟲類の二新種に就て

(明治四十年五月九日受領)

理學士 飯塚啓

茲に記載せんとする二種の環形動物は本邦沿岸に產し魚餌として賞用せらるゝ所にして兩者共にイソメ科(Eunicidae)に屬するものなり

スゴカイ

Diopatra sugokai n. sp.

此動物はスゴカイ或はフクロイソメと稱せられ砂地の海岸にして滿干兩潮線の間に產する多毛環蟲類にして常に砂石、介殼、海藻或は木竹の葉片等を集めて造りたる縱管中に棲息す而して常に其管の上端を砂上に挺出し落葉其他の其近邊に存在する物を集めて之を其管側に附着するを以て容易に其棲息する場所を識認し得るものなり第一圖は其全體を管と共に堀し出したるを示すものにして其體の頭尾兩端を管外に露出せるものなり而して其產する土地によりて形狀に大小あり東京灣に產するものは松島灣に產するものに比すれば稍大にして相州三

第一圖

スゴカイ及び其管(稍縮少)

NII-Electronic Library Service

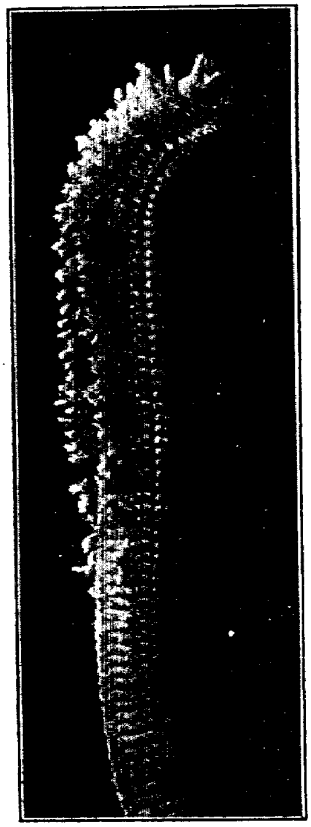
The Zoological Society of Japan

崎に產するものは之よりも更に大形なるを通常とす。

標徵—體の環節は其數三百內外を通常とすと雖も時に其數三百二十六に及びしものあり從て其體長四百五十ミ、メ、幅は疣足を加へ第三十環節の邊に於て十六ミ、メ、に達す頭は小にして其前端に一對の小なる感觸器と後方に五本の長き感觸器とを備ふ而して其內正中に位するもの最も長くして之を體の脊面に沿ふて後方に致す時は第九環節の前緣に達す此等五本の感觸器は各短かき基部と長き先端部とより成り其基部を圍繞して環狀の切れ込みあり而して基部の長さは正中線にある感觸器に於ては其全長の約五分の一を占む前方に位する小なる一對は其長さ略前記の感觸器の基部の長さに等し頭の前下方に一對の太き副感觸器あり眼は不判明なり第一環節即ち口環節は疣足を缺如し其前緣に一對の細き觸鬚を備ふ。

呼吸器即ち鰓は第四環節より始まるを通常とすと雖も稀に第五環節より始まるものあり又時に第四環節よりして始まると雖も其形小にして次位の環節に備ふる鰓の半に及ばざるものあり而して此等の鰓は其前方に位するもの

第二圖



スゴカイの前端部にして呼吸器の列を示す　二

最も長く(十五ミ、メ、に達するものあり)して後方に至るに從て次第に其長さを減少し(第二圖)且つ鰓絲の數も減少し第七十環節乃至第七十五環節に於ては全く之を缺如するに至る而して肛環節には四本の肛觸鬚を備ふ。

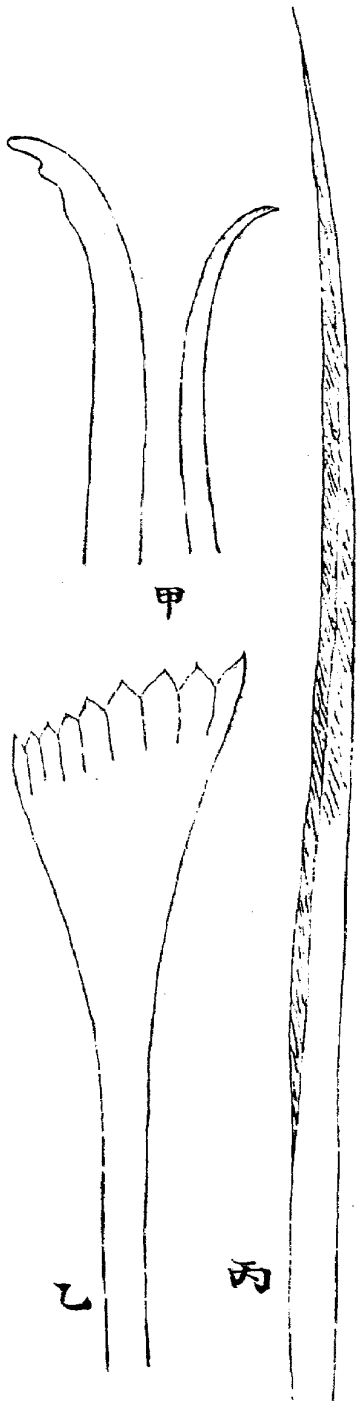
生活時に於ては其體は赤褐色にして其前部の脊面は暗青色を帶び强き透光を有し腹面は淡紅色にして黃色を帶び僅に透光を有す而して鰓は鮮紅色を呈し且つ體の前端部に位する鰓にありては鰓絲は多數にして一軸柄を圍繞して螺旋狀に配列す。

疣足は其發達著しからずと雖も第二乃至第四環節の鰓を有せざるものにありては稍長く尖りて體の外側より少しく前方に向て突出し脊觸鬚及び腹觸鬚は共に長く且つ黃

NII-Electronic Library Service

The Zoological Society of Japan

褐色なる鉤狀の剛毛(第三圖甲)を有す然れども之に次ぐ所の鰓を有せる環節に於ては疣足は小さく其脊觸鬚及び腹觸鬚は共に小形となり特に腹觸鬚は第六乃至第七以下の環節に至れば變形して瘤狀を呈するに至る而して後部



第三圖

スゴカイの剛毛

甲 第二環節のもの(百十五倍)
乙 第二十環節の櫛狀のもの(三百二十倍)
丙 同上の刺狀のもの(百十五倍)

の疣足に於て見る所の刺狀剛毛(第三圖丙)及び櫛狀剛毛(第三圖乙)は殆んど無色透明なり。

口器—上下兩顎共に濃褐黑色なり而して下顎は細長くして其前端擴がり此所に白色石灰質の大なる下顎板を着け其前縁には不規則なる鋸齒を備ふ而して上顎は其彎曲甚だしからず其基端は大にして中部より末端に至るに從て次第に細し一對の大齒板中其左方にあるものは十齒を有し右方に位するものは九齒を備ふ而して對をなさゞる左方の齒板は十齒を有し彎曲せる側齒板は左方のもの四個の齒を有し右方のものは八個の齒を有す。

産地—相州三崎海岸(明治三十六年三月三十一日)東京灣羽田海岸(明治三十一年六月)陸前松島灣渡波海岸(明治三十二年七月)。

イワムシ

Marphysa iwamushi n. sp.

此動物はイワムシ或はイワイソメ等と稱せられ本邦沿岸

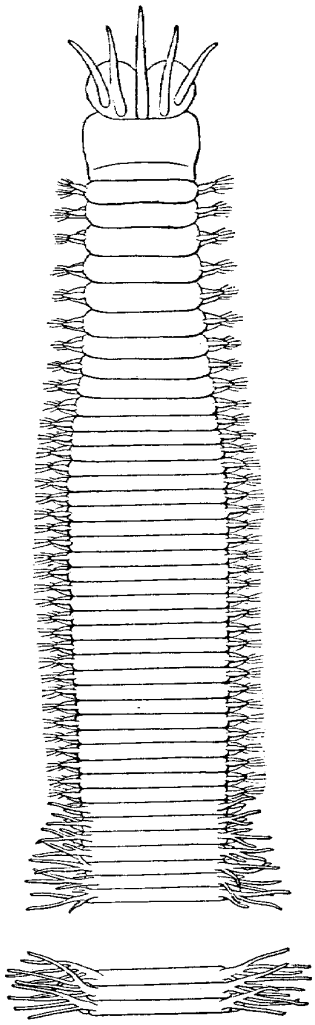
NII-Electronic Library Service

The Zoological Society of Japan

各地に產し滿干兩潮線の間泥砂中若くは軟脆なる岩石中に隱れて棲息し時に他の環蟲類(*Potamilla* の如き)の造りたる管中に潛むことあり。

標徵—體長三百乃至四百ミ、メ、其幅九乃至十ミ、メ、體環節は其數三百五十を算するものあり然れども其小なるものに至りては體の全長二百ミ、メ、に及ばざるものあり。

第四圖



イワムシの體の前端幷に中央部を示す(自然大の二倍)

體(第四圖)は其前端部の數環節に於ては殆んど圓く夫れより後方に及べば次第に扁く且つ其幅廣し而して第二十乃至第二十五環節の邊に於て最も廣く夫れより後方に向へば僅に狹まり遂に體の後端に至りて小なる肛環節に終る體色は脊面全部帶赤褐色にして其頭端に近き部分は稍黑色を帶ぶ而して腹面は一樣に脊面よりも淡き褐色なるを常とす。

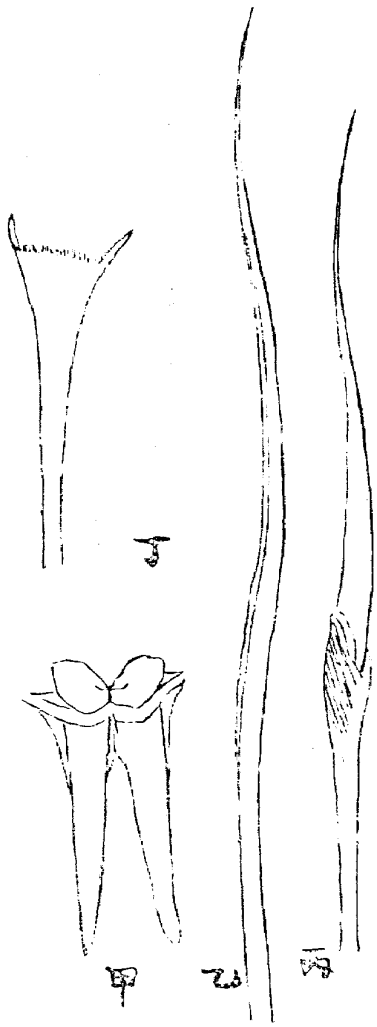
口前葉は大にして左右二葉に別たれ其中間の切れ込みは後方に向て淺き溝狀を呈し殆んど感觸器の底部に達す感觸器は五本あり其正中に位するもの最も長くして口前葉の長さの約二倍に達す眼は不判明なりと雖も最外側方に位する感觸器の基部に於て左右各一個を認むるを得可し第一及び第二の兩環節は疣足及び觸鬚を缺如す而して其限界は脊面に於てのみ之を認むることを得可し而して第一環節と第二環節とを合せたる長さは之に次ぐ所の三個の環節の長さと相似たり第三環節以下は皆疣足を備へ各疣足には脊觸鬚及び腹觸鬚を有す呼吸器は第三十乃至第三十六環節に始まり後方は肛環節を距ること十五乃至二十環節の邊に及ぶ而して鰓絲は前部の環節に於ては其數一二にして且つ短く第八十環節の邊に於て最も長く且つ其數も增加して四五本となる剛毛には刺狀剛毛(第五圖乙)

NII-Electronic Library Service

The Zoological Society of Japan

複剛毛(第五圖丙)及び櫛狀剛毛(第五圖丁)等皆よく發達す。

第五圖



甲 下顎(腹面六倍)
乙 刺狀剛毛(二百二十倍)
丙 複剛毛(二百二十倍)
丁 櫛狀剛毛(三百二十倍)
(剛毛は總て第百疣足より取りたるもの)

口器—上下兩顎共に黑色にして僅に褐色を帶び下顎は長く後方に開き其前端に位する下顎板は不規則なる菱形を呈し(第五圖甲)其端白色にして僅に鋸齒狀をなす上顎は其基部より末端に至るに從て次第に彎曲し一對の大齒板中其左にあるものは四齒を備へ右にあるものは五齒を備ふ而して彎曲せる側齒板は狹くして左にあるものは四個及び三個の齒を有し右にあるものは五齒を備ふ加之側齒板の外方左右に各一個の小なる副齒板を有す。

産地—青森灣淺蟲、陸前松島灣石濱及び同佐須濱、羽前加茂港、越前坂井郡雄島村米ヶ脇、丹後宮津灣溝尻、茨木縣大洗、相州三崎、駿河江ノ浦、遠江御前崎、志摩鳥羽、同和貝村、阿波國海部郡由岐、鳴門海峽、備後尾ノ道、臺灣澎湖島、(完)。

●猿類に寄生する蟐蟲 Bertia.

(明治四十年五月五日受領)

吉田貞雄

猿類に寄生する蟐蟲 Bertia と言ふ題であると猿類に寄生して居る該屬の蟐蟲を皆私が調べて見たかの如く聞へるが實はそふでない昨年九月十九日宮島理學士が飼養せられた猿が不幸にも永眠したので同氏

NII-Electronic Library Service